

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



もしかして・・・

昨日まで気温が30度まで上がるほどの夏日と思ったら今日の気温はなんと14度！ お隣さんが教えてくれたとおり天気になりました。「今日は暑いねー」と世間話を始めると、ほとんどの人（バスで会う顔見知りの人やお隣さんなど）が「明日まではこんな天気だけ週末からまた寒くなるわよ」とその週の天気を教えてくれるのです。そして大抵その通りの天気になるのです。みんな温度変化の激しいこの季節の天気を把握しながら週末のプランを立てるのでしょうか。私はあまり天気予報を見ないのですが、3日後の引っ越しの日はずがに気になって天気予報を調べると・・・雨でした。自分が雨女だったことを思い出しました。

夏になると公園の芝生の上に敷物を敷いて寝転がったり、本を読んだりして過ごす人が増えてきます。乾燥しているので日陰の所は涼しく心地がいいのです。もちろん緑がいっぱいの場所なので虫もたくさんいますがそんな物にいちいち怯んでいられません。ですが1種類だけ注意しないといけない虫がいるのです。それはドイツの南部に生息するマダニ（Zecke ツェッケ）。大抵は森の中や手入れのされていない草むらの中に潜んでいるので公園の芝生は大丈夫なのですが、それでも近所の市民プールの芝生でZeckeに刺された話を良く聞きます。たかがダニでなぜそんなに気を遣うかというと、約20パーセントのZeckeが脳炎ウイルスと重篤な症状を引き起こす菌を持っているので刺されたり、取り方を間違えると危険と言われているのです。森でしょっちゅう散歩する人は春頃から予防接種を受け始めるのです。そのZeckeに息子が刺されました。気づいたのはお風呂に入れるときに鎖骨の辺りに黒いほくろのような物がついていたのです。「こんな所にほくろってあったけ？」と触ってみるとぶっくりしているのです。ゴミかと思いい爪に引っかけてみると取れそうが取れない。よく見ると虫のようなのです。「もしかしてZecke? ひよえ!!」頭が皮膚に入り込んでるので無理に引き抜くと頭が取れてしまい、そこから菌が入る危険があるので専用のピンセ



庭に敷物を敷いてのんびり

ットで取る。と予備知識として知っていたのですが実際に見ると固まってしまいました。ピンセットも持っていないし病院が開いている時間でもなく、どうしようと思いましたが、ドイツ人なら取れるかも！ と思ってお隣さんに電話をして、素っ裸の息子をガウンでくるんで隣のお宅に担いで行きました。さすがに慣れた物でさくつと取ってくれました。刺されて直ぐだったようで血も吸われておらずキレイに取れたので問題はないと言ったことですが、1ヶ月以上してから症状が出る場合もあるので様子を見るようにとアドバイスを貰いました。そして翌日小児科に行つて刺された後の診察と予防接種の予約をしてZ e c k e用のピンセットを購入しました。刺されてから予防接種？ と思うかもしれませんが、幼稚園でどんどん森に行く機会が増えるので今後のためなのです。それからは森に行った日や芝生で遊んだときはZ e c k eが付いていないことを願いながら、服を脱がせてチェックするようにしています。



購入したZ e c k e用のピンセット

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞